

## 食料経済学特論 I (2単位)

担当者氏名 上岡美保

### ◆学習・教育目標

本講義のねらいは、食料経済学に関する調査・研究を行う上で必要な基礎的な食料経済学の理論の理解と修得、グローバル化の中でのフードシステムの変化をめぐる課題の模索等、大学院生が今後自ら食料経済関連の調査・研究を行えるような基礎的洞察力・分析力を養うことを目標とする。特に、食料消費構造の変化の実態を主要な統計資料等を用いて把握すると共に、食料消費構造変化を取り巻く課題について洞察力、分析力を高める。

### ◆取り扱う領域（キーワードで記載）

食料経済                      経済学                      フードシステム                      食料消費  
食生活                      食品産業策                      食料政策

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	イントロダクション(第1週)	・食料をめぐる基本課題の理解を深める	本講義のねらいは、食料経済学に関する調査・研究を行う上で必要な基礎的な食料経済学の理論の理解と修得、グローバル化の中でのフードシステムの変化をめぐる課題の模索等、大学院生が今後自ら食料経済関連の調査・研究を行えるような基礎的洞察力・分析力を養うことを目的とする。準備すべき事項は、レジュメの作成・該当部分の予習、さらに、常に自らの考え方を整理して、洞察力、分析力、プレゼンテーション能力を高めることが大切である。(毎回の準備・復習時間は、それぞれ1~2時間程度を目安とする)
2	食料経済の理論(第2~3週)	・食料経済学の理論を復習する	
3	食料消費構造の変化とその要因(第4~6週)	・グローバル化の中での食料消費構造変化の確認	
4	グローバル化と日本の食品産業(第7~10週)	・産業組織論的視点で食品工業・外食産業の構造をみるとともに、食品流通の変化と今後について議論する	
5	食料の安定確保と食品安全(第10~13週)	・世界の食料問題と日本の食料政策について修得する	
6	食料関連調査方法の検討(14~15週)	・食料関連調査・研究に必要な統計資料の精査、調査手法等について修得する	

### ◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

食料経済(高橋正郎)理工学社(2011)

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

フードシステムの経済学(時子山ひろみ・荏開津典生)医歯薬出版株式会社(2008年)

### ◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

課題のプレゼンテーション(50%)、授業中のディスカッション(25%)、授業中の演習(25%)

### ◆オフィスアワー 金曜日 16:30~18:00

◆その他受講上の注意事項

授業の進行については一例であり、具体的には授業時に指示する。

---